

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	オーストラリア 西オーストラリア州 パース
研修先	西オーストラリア州・兵庫文化交流センター
プログラム実習期間	平成 29 年 8 月 22 日～平成 29 年 9 月 9 日
学部/研究科・学年	経済学部 3 年

インターンシップ就業実習 報告書

私は、今回8月22日から9月9日まで兵庫県文化交流文化センターでインターンシップをさせていただきました。私が体験した仕事内容は大きく分けて3つあります。

まず、1つ目はスクールビジットのアシスタントです。スクールビジットとは、日本に興味のあるオーストラリアの小学生から高校生の子供達が兵庫県文化交流センターを訪れ、日本や兵庫県について少しでも知ってもらおうというものです。私の初めての出勤日にスクールビジットがありました。所長さんや上司の方々とも初めましての中緊張しながらのスクールビジットとなりました。その時のスクールビジットでは、消しゴムはんこ作りと書道の体験が行われました。消しゴムにカタカナで名前を書く作業を手伝ったり、書道のお手本役をさせていただきました。また、初日は子供達と一緒に所長さんが用意してくださった日本風のお弁当を食べながら日本でいま流行っているものなどについて会話をしました。また、小学生のスクールビジットの時は、赤穂、神戸、姫路、宝塚、明石、有馬など兵庫県の有名な場所は何が有名なのか、などを学びそこからゲームを用いてさらに兵庫県を知ろう！という体験をしました。そのときのグループわけの人数が足りず私は小学生チームに入り一緒にゲームをしました。もちろん私は日本語がわかるので簡単でしたが、オーストラリアの小学生たちはひらがなを読むスピードが速く驚きました。

2つ目は、日本語クラスのアシスタントです。日本語クラスでは、主に日本人の先生がオーストラリアのシニアの方に日本語を教えています。日本語クラスはビギナークラスと少しレベルアップしたクラスの2つあり、それぞれだいたい10人ほどの人数で、私ともう一人のインターンシップ生はアシスタントとして日本語を教える補助をしていました。例えば、日本語では、人のことをいう際は「います」を使いますが、もののことを指す場合は「あります」を使います。この二つをいい分けることがオーストラリア人にとっては難しく感じるのだそうで、その違いについての説明や、この単語は日本語でなんて言うの？といった質問などを答えるということを主にしていました。そのとき、私自身も英語でなんていうのかわからない単語を調べたり、オーストラリアの方に聞いたりしてお互いに教えあいをしていました。また、私はレベルアップクラスに新しく入ってきた生徒さんの個人アシスタントを任されました。過去形や疑問形など基礎の部分から、カードを使って日本語の文法を学ぶゲームなどを一緒にしました。

最後は、プレゼンテーションを作ることです。私には、インターンシップ最終日に日本の文化について紹介するプレゼンテーションの発表をするという、このインターンシップの集大成とも言えるイベントがありました。まず一番初めに私たちで、このプレゼンテーションを告知するチラシを作る作業にとりかかりました。最初に作ったチラシにはインパクトが欠けているという問題点がありましたが、上司の方々のアドバイスを元に何度も作り直した結果、満足のいくチラシが完成しました。そのあと、日本であらかじめ考えていたテーマである「お弁当」についてのプレゼンテーションで話す内容や話し方など細かいところまで、所長さんをはじめ上司の方々に教えてもらいました。そしてプレゼンテーションが完成したのち、インターンシップ担当の上司に発音チェックをしてもらい、オーストラリア独特の発音なども直してもらいました。そうして完成したプレゼンテーションを最終日に、来てくださったオーストラリアの方々に見ていただきました。見に来てくださった方からは興味深いテーマだったと言ってもらい、今まで練習に何度も付き合ってくくださった所長さんや上司の方は今までで一番良いプレゼンテーションだと言ってもらいました。

感想および意見

このインターンシップで1番のビッグイベントだったプレゼンテーションは、私のかけがえのない発表となりました。このプレゼンテーションを行うまで様々な過程があり、その全てが私の経験値です。

まず1つ目は、プレゼンテーションの発表を告知するためのチラシづくりです。時間をかけてもう一人のインターンシップ生と連携し、1回目に作り上げたチラシは、「インパクトのないありきたりなチラシだ」と言うアドバイスを上司の方にいただきました。そこから文字の色や文字の大きさを変更したり、自分たちの写真を入れて見たりと工夫していきました。そこから2回目に出来たチラシを見てもらうと、先ほどよりかは良くなっているけど、何か足りないと言われ、私達のチラシには何が足りないのか、また何を入れることによって目を引くチラシになるのかを考え作り直しました。そうやって何度も作っては、所長さんや上司の方々にアドバイスを言ってもらう作業を何度も繰り返してやっと満足の行くチラシが完成しました。私はホームステイ先の家でもチラシづくりを考えていて、ホストファザーに文字のインパクトのつけ方を教えてもらい自分なりに努力し、また、様々な方のアドバイスのおかげでチラシが完成したので達成感がとてもありました。

次にプレゼンテーションについてです。プレゼンテーションを行うために、あらかじめ日本で考えていたテーマ「お弁当」について、お弁当の何を紹介するのかといった内容を、所長さんをはじめ上司の方々に聞いてもらい、そこからさらにテーマについて深く調べ直しました。ポイントは、わかりやすく、さらにオーストラリアの方々に興味を持ってもらうことです。私が、お弁当をテーマに選んだ理由は、お弁当が私にとって思

い出の料理だからです。小学生の時の遠足のお弁当、中学、高校の時の毎日のお弁当というたくさんの思い出がお弁当にはあります。オーストラリアの方々にも、お弁当の素晴らしいさを知ってほしいと思いこのテーマを選びました。また、このテーマを話すにあたり、お弁当の伝統について話すことを決めました。まずは日本の伝統であるバラン(本来は葉っぱを切って作っていた)が現在はプラスチックのバランや動物や食べ物などかわいらしいバランになっていることです。さらに、アルミカップやシリコンカップ、紙カップなど様々な「しきる」商品があることや昔のわっぱ弁当箱から現在のプラスチックお弁当箱、最新のお弁当箱を紹介すること、キャラクター弁当のかわいさやユーモアさなどを知ってもらうこと、お弁当は作る人が栄養や色のバランスなど様々なことを考えてつくることなどです。また、一番取り上げたのは、お弁当をつくる楽しさです。私は日本であらかじめ作っていた紙粘土のお弁当の具材を、プレゼンテーションを聞きに来てくださる方と一緒にプラスチックのお弁当箱につめるという体験を考えていました。具材は、三角おにぎり、明太子おにぎり、丸いおにぎり、エビフライ、ハンバーグ、ポテトサラダ、唐揚げ、トマト、ブロッコリー、など炭水化物、たんぱく質、ビタミンのたくさんの種類を作りました。その中から、何をいれようかな?とかおにぎりとおかずの間にどのしきりを入れてみようかな?などみなさん考えながら取り組んでくださいました。みなさんが作ったお弁当は各自持って帰ってもらうことにしました。その時、喜んで持って帰ってくれている姿を見たり、発表を見てからお弁当についてもっともっと知りたくなったと言ってくださったり、日本に行った時はお弁当に注目するねと言ってくれた方がいたことがとても嬉しかったです。このプレゼンテーションをするまでに、所長さんや上司の方々に2回リハーサルを見てもらいたくさんのアドバイスや課題点をいただきました。また、特にインターンシップ担当の上司には最後の最後まで英語の文法チェックや発音チェックをしてもらいました。プレゼンテーションが終わった日はインターンシップの最終日で、所長さんと上司の方に今までで一番良かったよと言ってもらうことができ改めて素晴らしい体験をさせていただいたなと思いました。このインターンシップは私にとってかけがえのない思い出であり経験です。

また、ホストファミリーには毎週さまざまな場所に連れて行ってもらいました。例えばフリーマントルマーケットや海、川、公園などの観光地や、母方のホストグランドマザーの家や父方のホストグランドペアレントの家などです。特に印象に残った場所が、父方のホストグランドペアレントの家です。父方のホストグランドペアレントはキャンピングカーで生活をしており、私は生まれて初めてキャンピングカーの中に招待してもらいました。また、オーストラリアではキャラバンパークといってキャンピングカーを駐車しお金を払えば2週間そこで生活できる公園があります。キャラバンパークにはプール、公園、お風呂があり、水道代やガス代、電気代も無料です。そのような場所を私は日本で見たことがありませんでした。私は、オーストラリアは土地が広大なのでキャンピングカー専用の公園があるのかなと思いました。さらに、私が滞在した3週間の間

にホストマザーの誕生日と父の日があり私は子供達と一緒にメッセージカードを書いてプレゼントしました。私のつたない英語のメッセージカードにホストマザーとホストファザーは喜んでくれたことが嬉しかったです。また、私の滞在最終日には、お友達家族も招待してくれてパーティをしてくれたり、朝から公園へ行ってパンケーキを焼いて食べたり、BBQを2回もしてくれたり、子供たちが寝たあと、両親と一緒に映画を見たりとたくさんの思い出を作ってもらいました。私はこのホストファミリーの家族になったことが人生の中で宝物です。今私は、ホストファミリーにアルバムを製作しています。ホストファミリーとの思い出をアルバムにし郵送して感謝の気持ちを伝えたいと思っています。



